

居宅での状況について、食事や排泄、更衣、整容などの ADL では自立がそれぞれ 1,484 名、1,308 名、995 名、1,175 名と多くなったのに対して、入浴では 477 名と少なかった。これら ADL の中で全介助の状態であった活動については、入浴が 134 名ともっとも多くなった。IADL では全介助もしくは実施していないと考えられる活動が買い物で 599 名、調理 730 名、洗濯 699 名、掃除 692 名と多くなった。

日常生活上の課題の内訳では、歩行・移動(84.1%)、筋力向上(74.3%)、関節可動域(51.2%)、筋持久力向上(51.2%) が利用者の半数以上で認められた。この他に多く認められたものは、心肺の運動耐用能(30.9%)、筋緊張緩和(28.9%)、姿勢の維持(25.4%)、起居・移乗動作(25.8%)、階段昇降(26.6%)であった。意欲の向上(19.5%)、認知機能(15.1%)、コミュニケーション(12.2%)の認知機能も日常生活上の課題として認められた。

このうち、最優先の課題とされたのは、歩行・移動の 834 名(49.5%)と約半数を占めた。この他に多く挙げられた課題は、痛みの緩和 147 名(8.7%)、起居・移乗動作 98 名(5.8%)、筋力向上 78 名(4.6%)、運動機能 75 名(4.4%)、心肺の運動機能耐用能 60 名(3.6%)などであった。

表 2. 通所リハ利用者の課題

	N	% or 95%CI
解決すべき課題		
健康管理	871	51.7
心身機能の維持	1067	63.3
心身機能の向上	863	51.2
意欲の向上	261	15.5
療養上のケアの提供	139	8.2
ADL 維持	763	45.3
ADL 向上	616	36.5
閉じこもり予防	588	34.9
社会参加支援	314	18.6
介護負担軽減	371	22.0
その他	69	4.1
心身機能		
運動機能障害	1519	90.1
感覚機能障害	448	26.6
関節拘縮	710	42.1
疼痛	976	57.9
口腔機能障害	60	3.6
摂食嚥下機能障害	75	4.4
失語症・構音障害	166	9.8
精神障害 (BPSD)	59	3.5
見当識障害	202	12.0
記憶障害	262	15.5
その他の高次脳機能障害	105	6.2
栄養障害	16	0.9

HDS-R (n=604)	21.5±6.5	21.0–22.1
MMSE (n=125)	22.8±5.4	21.9–23.8
居宅での状況（現在の実行状況）	（自立/見守り/一部介助/全介助）	
食事	1484/119/56/19	
排泄	1308/113/208/46	
入浴	477/207/812/134	
更衣	995/185/444/51	
整容	1175/158/297/43	
移乗	1213/242/185/31	
屋内移動	1136/300/163/79	
階段昇降	470/470/402/156	
屋外移動	490/480/409/268	
買い物	250/216/398/599	
調理	303/73/259/730	
洗濯	357/76/254/699	
掃除	282/79/333/692	
起き上がり	1450/108/84/32	
座位保持	1542/85/38/10	
立ち上がり	1264/240/138/30	
立位保持	1265/252/125/28	
日常生活上の課題		
呼吸機能	48	2.8
心肺の運動耐用能機能	521	30.9
循環機能	64	3.8
関節可動域	863	51.2
筋力向上	1253	74.3
筋緊張緩和	488	28.9
筋持久力向上	863	51.2
運動機能	838	49.7
痛みの緩和	857	50.8
姿勢の維持	429	25.4
起居・移乗動作	435	25.8
歩行・移動	1418	84.1
階段昇降	448	26.6
公共交通機関利用	52	3.1
認知機能	255	15.1
意欲の向上	328	19.5
入浴	235	13.9
整容	72	4.3
排泄	160	9.5

更衣	149	8.8
食事	61	3.6
調理	105	6.2
洗濯	81	4.8
掃除・整理整頓	113	6.7
家の手入れ	87	5.2
買い物	89	5.3
対人関係	153	9.1
余暇活動	282	16.7
仕事	26	1.5
音声と発話の機能	52	3.1
聴覚機能	8	0.5
摂食嚥下機能	49	2.9
言語機能	63	3.7
コミュニケーション	205	12.2
その他	41	2.4
最優先の課題		
呼吸機能	6	0.4
心肺の運動耐用能機能	60	3.6
循環機能	2	0.1
関節可動域	37	2.2
筋力向上	78	4.6
筋緊張緩和	31	1.8
筋持久力向上	43	2.6
運動機能	75	4.4
痛みの緩和	147	8.7
姿勢の維持	22	1.3
起居・移乗動作	98	5.8
歩行・移動	834	49.5
階段昇降	28	1.7
公共交通機関利用	8	0.5
認知機能	34	2.0
意欲の向上	12	0.7
入浴	11	0.7
整容	0	0.0
排泄	20	1.2
更衣	4	0.2
食事	2	0.1
調理	14	0.8
洗濯	3	0.2

掃除・整理整頓	4	0.2
家の手入れ	16	0.9
買い物	9	0.5
対人関係	3	0.2
余暇活動	25	1.5
仕事	4	0.2
音声と発話の機能	4	0.2
聴覚機能	0	0.0
摂食嚥下機能	7	0.4
言語機能	5	0.3
コミュニケーション	12	0.7
その他	14	0.8

3) 要介護度と課題の関係

要介護度と課題の関係を表3に示す。解決すべき課題では、要支援1～要介護2までに心身機能の維持・向上が必要と判断され、ADLの維持・向上には要介護1～3の利用者でその必要性が判断された。要介護3～5の利用者については、介護負担の軽減が挙げられた。

心身機能の内訳では、運動機能障害と関節拘縮、疼痛が要介護度に関係なく認められた一方、見当識障害や記憶障害、その他の高次脳機能障害については要介護度が重くなるほど目立つ結果となった。

日常生活上の課題についても、関節可動域や筋力向上、筋緊張緩和、筋持久力向上、運動機能といった心身機能に関係した課題が要支援1～要介護2までの比較的軽度の要介護度の利用者に認められた。歩行・移動や階段昇降でも要介護1、2の利用者に多く挙げられた。整容、排泄、更衣などのADLについては、要介護1～3の利用者に多く認められた。調理、洗濯、掃除などのIADLに関しては、要支援1～要介護3までの利用者に認められた。

最優先の課題との関係では、歩行・移動を挙げられた利用者が要介護5を含めた全要介護度で多くなった。一方、起居・移乗動作では要介護度2以上の重度の要介護度で目立ち、運動機能や痛みの緩和では要支援1～要介護2までの軽度の要介護度者で目立つ結果となった。

表3. 要介護度と課題の関係

	要支援		要介護				
	1	2	1	2	3	4	5
解決すべき課題							
健康管理	103	139	231	181	148	86	31
心身機能の維持	157	192	275	222	159	95	32
心身機能の向上	104	160	232	179	133	77	28
意欲の向上	27	49	80	55	44	19	5
療養上のケアの提供	11	18	30	25	30	22	11
ADL維持	88	146	199	164	122	69	16
ADL向上	45	97	151	143	112	74	21
IADL維持	54	68	63	43	29	12	4

IADL 向上	29	41	74	50	34	18	6
閉じこもり予防	90	101	176	120	76	44	11
社会参加支援	50	59	95	60	37	26	8
介護負担軽減	16	32	70	79	90	69	31
その他	7	6	26	16	7	9	1
<hr/>							
心身機能							
運動機能障害	183	265	385	317	244	150	46
感覚機能障害	37	68	95	110	92	51	16
関節拘縮	64	117	163	151	136	83	31
疼痛	133	198	267	188	128	80	27
口腔機能障害	9	8	15	12	7	7	10
摂食嚥下機能障害	3	7	10	17	22	15	14
失語症・構音障害	12	25	43	29	26	30	14
精神障害 (BPSD)	9	8	18	14	5	3	3
見当識障害	21	13	64	44	30	29	9
記憶障害	37	20	90	51	39	28	11
その他の高次脳機能障害	3	9	18	21	27	24	7
栄養障害	0	1	6	5	0	2	5
<hr/>							
日常生活上の課題							
呼吸機能	7	8	12	11	8	7	5
心肺の運動耐用能機能	65	90	132	125	75	45	13
循環機能	7	10	16	19	6	6	2
関節可動域	89	142	213	178	94	94	29
筋力向上	155	232	323	265	196	114	31
筋緊張緩和	51	83	107	105	92	42	18
筋持久力向上	111	151	229	174	137	78	23
運動機能	105	145	223	172	133	77	19
痛みの緩和	121	174	247	174	102	64	23
姿勢の維持	49	71	106	78	80	45	21
起居・移乗動作	21	61	86	94	85	70	25
歩行・移動	174	261	375	305	224	123	31
階段昇降	42	79	121	105	72	39	11
公共交通機関利用	5	7	17	7	11	4	2
認知機能	34	24	84	58	33	23	9
意欲の向上	33	59	89	77	49	23	6
入浴	21	36	72	59	33	25	9
整容	4	5	23	20	12	7	2
排泄	8	9	33	34	35	38	8
更衣	6	18	37	37	32	21	10
食事	5	11	16	9	10	9	5

調理	11	23	30	22	12	6	1
洗濯	13	19	24	13	8	7	0
掃除・整理整頓	17	28	34	19	11	7	2
家の手入れ	13	18	30	11	9	8	2
買い物	13	21	29	13	8	5	2
対人関係	22	26	47	29	16	15	6
余暇活動	42	41	83	59	41	30	8
仕事	5	1	12	4	0	2	1
音声と発話の機能	6	7	12	7	9	8	6
聴覚機能	1	2	3	2	1	0	0
摂食嚥下機能	2	7	11	6	9	11	9
言語機能	7	9	16	12	9	10	3
コミュニケーション	16	36	57	51	27	25	8
その他	6	8	7	5	7	4	1
最優先の課題							
呼吸機能	1	2	1	0	2	1	0
心肺の運動耐用能機能	11	13	16	10	6	5	1
循環機能	1	0	1	1	0	0	0
関節可動域	2	9	8	5	7	2	7
筋力向上	19	18	22	11	7	6	2
筋緊張緩和	2	7	6	8	8	1	1
筋持久力向上	7	7	13	12	1	6	1
運動機能	12	15	16	10	19	4	0
痛みの緩和	31	37	43	22	17	6	2
姿勢の維持	1	5	4	2	3	3	4
起居・移乗動作	5	5	12	20	26	24	8
歩行・移動	92	145	217	200	130	75	18
階段昇降	3	8	11	5	1	3	0
公共交通機関利用	2	1	1	0	3	1	0
認知機能	6	2	17	8	1	2	0
意欲の向上	2	4	2	4	2	0	0
入浴	1	2	5	4	1	2	0
整容	0	0	0	0	0	0	0
排泄	0	0	3	3	7	4	3
更衣	0	0	0	0	3	1	1
食事	0	0	0	1	0	0	0
調理	0	3	6	3	1	1	0
洗濯	0	0	3	0	0	0	0
掃除・整理整頓	1	0	2	0	0	0	0
家の手入れ	2	2	6	3	2	1	0

買い物	2	5	1	1	0	0	0
対人関係	1	1	1	0	0	0	0
余暇活動	8	3	7	1	5	1	1
仕事	1	0	1	1	0	0	0
音声と発話の機能	1	0	1	0	1	0	1
聴覚機能	0	0	0	1	0	0	0
摂食嚥下機能	0	0	1	0	0	1	2
言語機能	1	2	2	1	1	0	0
コミュニケーション	2	0	5	0	1	3	0
その他	3	3	3	2	1	0	1

4) リハビリテーションの内容

提供されているリハビリテーションの内容を表4に示す。選択したリハビリテーションの種目では理学療法が1,444名(85.6%)、作業療法が712名(42.2%)、言語聴覚療法が68名(4.0%)となった。

計画に記載された訓練内容としては、筋力向上訓練1,228名(72.8%)ともっとも多く、次いで歩行・移動練習1,211名(71.8%)となった。この他に、関節可動域訓練883名(52.4%)、痛みの緩和訓練が628名(37.2%)、筋持久力向上訓練が619名(36.7%)、階段昇降練習361名(21.4%)、姿勢の保持訓練302名(17.9%)などが続いた。ADLの個々の行為練習については11名~47名(0.7%~2.8%)と少なかった。

また1週間あたりの訓練時間については、自己訓練練習が51.1時間(SD=105.8)ともっとも多くなった。これ以外に20時間を超えた訓練は、体力向上訓練26.3時間(SD=35.9)、筋力向上訓練20.3時間(SD=21.1)、筋持久力向上訓練20.5時間(SD=20.2)、運動機能改善訓練21.2時間(SD=27.5)など身体機能訓練が並んだ。身体機能訓練以外では、公共交通機関利用練習21.6時間(SD=26.6)、意欲の向上訓練23.4時間(SD=18.7)、一連の調理行為練習22.7時間(SD=25.7)、対人関係練習29.8時間(SD=34.9)、余暇活動練習39.1時間(SD=42.6)、言語機能訓練22.1時間(SD=20.0)、コミュニケーション練習20.7時間(SD=19.2)などが多くなった。

表4. リハビリテーションの内容

	N or Mean±SD	% or 95%CI
選択したリハ		
理学療法	1444	85.6
作業療法	712	42.2
言語聴覚療法	68	4.0
その他	60	3.6
計画に記載した訓練		
呼吸機能訓練	31	1.8
体力向上訓練	554	32.9
循環機能の改善訓練	36	2.1
関節可動域訓練	883	52.4
筋力向上訓練	1228	72.8

筋緊張緩和訓練	411	24.4
筋持久力向上訓練	619	36.7
運動機能改善訓練	440	26.1
痛みの緩和訓練	628	37.2
姿勢の保持訓練	302	17.9
起居・移乗動作練習	271	16.1
歩行・移動練習	1211	71.8
階段昇降練習	361	21.4
公共交通機関利用練習	8	8
認知機能訓練	114	6.8
意欲の向上訓練	58	3.4
一連の入浴行為練習	47	2.8
一連の整容行為練習	11	0.7
一連の排泄行為練習	43	2.6
一連の更衣行為練習	33	2.0
一連の食事行為練習	15	0.9
一連の調理行為練習	18	1.1
一連の洗濯行為練習	12	0.7
一連の掃除・整理整頓行為練習	16	0.9
家の手入れ練習	18	1.1
買い物練習	10	0.6
対人関係練習	23	1.4
余暇活動練習	80	4.7
仕事練習	7	0.4
構音機能訓練	22	1.3
聴覚機能訓練	19	1.1
摂食嚥下機能訓練	24	1.4
言語機能訓練	34	2.0
コミュニケーション練習	64	3.8
自己訓練練習	173	10.3
その他	42	2.5
<hr/>		
1 週間あたりの訓練時間		
呼吸機能訓練	10.0±7.1	7.2-1.7
体力向上訓練	26.3±35.9	23.3-29.3
循環機能の改善訓練	17.4±12.1	13.3-21.6
関節可動域訓練	14.8±13.4	13.9-15.6
筋力向上訓練	20.3±21.1	19.1-21.5
筋緊張緩和訓練	15.2±13.0	13.9-16.5
筋持久力向上訓練	20.5±20.2	18.9-22.1
運動機能改善訓練	21.2±27.5	18.6-23.8

痛みの緩和訓練	19.8±17.5	18.4-21.1
姿勢の保持訓練	14.8±27.1	11.7-17.6
起居・移乗動作練習	15.6±22.8	12.8-18.3
歩行・移動練習	19.7±18.5	18.7-20.7
階段昇降練習	11.4±9.7	10.4-12.4
公共交通機関利用練習	21.6±26.6	0-43.0
認知機能訓練	29.6±25.5	24.8-34.3
意欲の向上訓練	23.4±18.7	18.4-28.4
一連の入浴行為練習	19.6±18.5	14.0-25.1
一連の整容行為練習	8.0±5.6	4.2-11.8
一連の排泄行為練習	13.1±9.4	10.2-16.0
一連の更衣行為練習	12.1±12.0	7.7-16.5
一連の食事行為練習	15.2±7.6	11.0-19.4
一連の調理行為練習	22.7±25.7	10.0-35.4
一連の洗濯行為練習	14.2±9.7	8.0-20.4
一連の掃除・整理整頓行為練習	11.1±7.8	7.0-15.3
家の手入れ練習	13.3±5.9	10.2-16.5
買い物練習	12.3±9.1	5.8-18.8
対人関係練習	29.8±34.9	14.3-45.3
余暇活動練習	39.1±42.6	29.5-48.6
仕事練習	13.6±12.5	2.0-25.1
構音機能訓練	13.0±7.0	9.7-16.3
聴覚機能訓練	-	-
摂食嚥下機能訓練	15.8±2.2	11.2-20.5
言語機能訓練	22.1±20.0	15.0-29.2
コミュニケーション練習	20.7±19.2	15.8-25.6
自己訓練練習	51.1±105.8	35.1-67.1
その他	30.1±30.9	20.2-39.9

5) 最優先の課題とリハ内容との関係

通所リハビリテーションの最優先の課題とリハ内容の関係について、表5に示す。太字で示した数値は最優先の課題とリハの内容がマッチしていることを指す。例えば、関節可動域訓練を見ると、筋力向上や痛みの緩和、歩行・移動を最優先の課題として挙げた利用者に対して実施されていた。同様に、痛みの緩和訓練は痛みの緩和を最優先課題とした150名に実施されていた。見方を変えると、歩行・移動練習は最優先課題がどのようなものであっても提供されていることが明らかである。

表5. 最優先の課題とリハ内容の関係

最優先の課題	呼吸	体力向 上訓練	循環	関節 可動域	筋力向 上訓練	筋緊 張 緩和	筋持久 力向上	運動 機能 改善
	機 能訓 練		機 能訓 練					
呼吸機能	5	3	1	3	3	1	3	2
心肺の運動耐用能機能	6	51	4	15	43	9	30	18
循環機能	0	0	2	1	2	0	0	1
関節可動域	1	9	0	41	22	17	7	11
筋力向上	1	31	1	38	83	13	31	19
筋緊張緩和	1	7	2	24	13	33	13	9
筋持久力向上	2	19	2	24	37	8	38	12
運動機能	0	37	8	47	59	20	30	63
痛みの緩和	4	36	0	96	114	58	45	36
姿勢の維持	1	5	1	9	12	5	5	4
起居・移乗動作	0	21	11	75	66	26	24	23
歩行・移動	8	297	0	488	720	219	352	221
階段昇降	0	9	0	13	18	2	13	7
公共交通機関利用	0	1	2	4	5	3	6	6
認知機能	0	7	0	3	15	1	7	3
意欲の向上	0	5	0	4	10	4	7	3
入浴	1	5	0	4	12	1	2	5
整容	1	5	0	13	11	5	4	3
排泄	0	0	1	2	3	1	0	1
更衣	0	2	0	0	1	0	2	0
食事	0	1	0	8	11	3	5	4
調理	0	1	0	2	3	1	1	2
洗濯	0	1	1	1	1	0	2	3
掃除・整理整頓	0	5	0	6	8	3	7	6
家の手入れ	0	6	0	1	9	0	3	2
買い物	0	1	0	1	1	0	0	2
対人関係	1	14	0	10	14	5	11	3
余暇活動	0	2	0	0	2	2	2	4
仕事	0	0	0	1	0	0	0	1
摂食嚥下機能	2	1	0	2	1	3	1	0
言語機能	0	1	0	2	1	1	1	0
コミュニケーション	0	5	0	3	6	2	4	4
自己訓練練習	0	6	0	7	10	2	6	3

最優先の課題	痛みの 緩和	姿勢の 保持	起居 移乗	歩行 移動	階段昇 降練習	公共 交 通機 関	認知機 能訓練	意欲 向 上訓 練
呼吸機能	0	0	0	5	0	0	1	0
心肺の運動耐用能機能	16	7	4	36	16	0	2	2
循環機能	0	0	0	2	0	0	0	0
関節可動域	15	6	5	16	6	0	0	0
筋力向上	34	9	3	48	10	0	6	1
筋緊張緩和	9	8	3	22	5	0	0	0
筋持久力向上	12	12	3	32	13	0	0	0
運動機能	28	16	16	46	17	0	5	6
痛みの緩和	150	23	6	83	19	0	6	7
姿勢の維持	6	19	5	8	0	0	1	0
起居・移乗動作	26	27	89	57	5	0	3	0
歩行・移動	309	170	129	829	222	2	46	27
階段昇降	9	0	1	15	31	1	0	0
公共交通機関利用	5	1	0	6	3	4	0	0
認知機能	10	0	1	11	4	0	32	9
意欲の向上	6	2	1	9	4	0	4	7
入浴	5	2	2	9	2	1	2	4
整容	5	6	9	15	2	0	3	0
排泄	3	1	0	2	0	0	0	0
更衣	0	1	1	1	0	0	0	0
食事	3	2	1	9	6	0	0	0
調理	1	0	0	3	1	0	1	0
洗濯	1	1	0	1	1	0	0	0
掃除・整理整頓	6	3	0	10	4	0	2	0
家の手入れ	4	3	0	7	2	0	0	1
買い物	1	0	0	1	0	0	1	0
対人関係	9	2	1	15	6	0	3	1
余暇活動	2	1	0	2	0	0	0	0
仕事	0	0	0	0	0	0	0	0
摂食嚥下機能	0	0	1	1	1	0	1	0
言語機能	1	0	0	1	0	0	0	0
コミュニケーション	1	1	1	3	1	0	2	1
自己訓練練習	6	2	2	6	1	0	1	0

最優先の課題	入浴		排泄				洗濯	掃除
	行 為練 習	整容行 為練習	行 為練 習	更衣行 為練習	食事行 為練習	調理行 為練習	行 為練 習	行 為練 習
呼吸機能	0	0	0	0	0	0	0	0
心肺の運動耐用能機能	3	0	0	0	0	0	0	0
循環機能	0	0	0	0	0	0	0	0
関節可動域	0	0	0	1	1	0	0	0
筋力向上	2	0	0	0	0	0	0	0
筋緊張緩和	0	0	1	1	1	0	0	1
筋持久力向上	1	0	0	1	0	1	1	0
運動機能	0	0	0	1	0	0	0	0
痛みの緩和	5	1	0	1	0	0	0	1
姿勢の維持	0	0	0	0	0	0	0	0
起居・移乗動作	1	2	7	4	4	1	0	0
歩行・移動	24	5	20	14	6	4	4	6
階段昇降	0	0	0	0	0	0	0	0
公共交通機関利用	0	0	0	0	0	1	1	1
認知機能	2	1	2	1	0	0	0	1
意欲の向上	0	0	0	0	1	0	0	0
入浴	8	0	0	2	0	0	0	0
整容	1	0	0	3	0	1	0	0
排泄	0	1	13	0	0	0	0	0
更衣	1	0	0	4	0	0	0	0
食事	0	0	0	1	1	0	1	2
調理	0	0	0	0	0	8	0	0
洗濯	0	0	0	0	0	0	3	0
掃除・整理整頓	0	0	0	0	0	0	1	4
家の手入れ	0	0	0	0	0	0	0	0
買い物	0	0	0	0	0	0	0	0
対人関係	2	1	0	1	0	0	1	0
余暇活動	0	0	0	0	0	1	0	0
仕事	0	0	0	0	0	0	0	0
摂食嚥下機能	0	0	0	0	1	0	0	0
言語機能	0	0	0	0	0	0	0	0
コミュニケーション	1	0	0	0	1	0	0	0
自己訓練練習	0	0	0	0	0	1	0	0

最優先の課題	家の 手入れ	買い 物 練習	対人 関 係練 習	余暇 活 動練 習	仕事 練習	摂食 嚥 下訓 練	言語 機 能訓 練	コミュ ニケー ション	自 己 訓 練
呼吸機能	0	0	0	0	0	0	0	1	0
心肺の運動耐用機能	1	0	0	1	0	1	1	1	8
循環機能	0	0	0	1	0	0	0	0	0
関節可動域	1	0	0	4	0	0	0	0	1
筋力向上	1	0	1	5	0	2	0	2	5
筋緊張緩和	0	0	0	2	0	1	1	3	4
筋持久力向上	1	0	0	0	0	0	0	0	6
運動機能	0	0	0	4	0	3	1	1	6
痛みの緩和	3	2	1	7	0	0	4	2	15
姿勢の維持	1	0	0	1	0	1	1	2	5
起居・移乗動作	0	0	0	4	0	1	2	3	7
歩行・移動	2	6	7	25	1	10	14	29	87
階段昇降	0	0	0	0	0	1	1	1	1
公共交通機関利用	0	0	0	1	0	1	0	0	0
認知機能	1	1	4	6	0	0	0	4	2
意欲の向上	0	1	1	0	0	0	0	1	2
入浴	0	0	1	4	0	2	1	1	2
整容	1	0	1	2	0	0	0	1	4
排泄	0	0	0	1	0	0	0	0	0
更衣	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食事	0	0	0	1	0	0	1	0	3
調理	0	0	0	0	0	0	0	0	0
洗濯	0	0	0	1	0	0	0	0	2
掃除・整理整頓	0	0	0	2	0	0	0	0	4
家の手入れ	6	0	1	0	0	0	0	1	1
買い物	1	1	3	0	0	0	0	0	0
対人関係	0	0	1	0	0	0	0	0	6
余暇活動	0	0	0	12	1	0	1	2	1
仕事	0	0	0	1	3	0	1	2	1
摂食嚥下機能	0	0	0	0	0	6	0	1	1
言語機能	0	0	0	1	0	0	5	2	1
コミュニケーション	0	0	2	0	1	1	7	11	3
自己訓練練習	0	0	0	1	0	0	0	0	4

6) 計画策定者と最優先課題の関係

通所リハの実施計画の主たる策定者を表 6 に示す。もっとも多かったのは理学療法士の 1,137 件で全体の 67.4% を占めた。次いで、作業療法士の 453 件 (26.9%) であった。この 2 職種を合計すると 1,590 件となり、全体の 94.3% を占めた。

表 6. リハ計画の主たる策定者

職種	N	%
医師	20	1.2
理学療法士	1137	67.4
作業療法士	453	26.9
言語聴覚士	23	1.4
その他	53	3.1

通所リハビリテーションの計画策定者と最優先課題の関係を表 7 に示す。絶対数が異なるため、それぞれの職種ごとに割合として示した。いずれの職種においても歩行・移動を最優先課題として挙げていた。理学療法士は歩行・移動の次に多かった最優先課題は痛みの緩和 (9.5%) であった。作業療法士においても同様で、2 番目に多かった最優先課題は痛みの緩和 (7.7%) であった。この 2 職種は 3 番目に挙げた課題も起居・移乗動作と同様の結果となった。言語聴覚士においては歩行・移動の割合とコミュニケーションが等しい 21.7% となった他、構音機能訓練 (17.4%)、言語機能 (8.7%) と先の 2 職種とは異なる傾向を示した。

表 7. 計画策定者と最優先課題の関係の割合 (%)

最優先の課題	医師 (n=20)	理学療法士 (n=1137)	作業療法士 (n=453)	言語聴覚士 (n=23)	その他 (n=53)
呼吸機能	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0
心肺の運動耐用能機能	0.0	4.0	2.9	0.0	1.9
循環機能	0.0	0.1	0.0	0.0	1.9
関節可動域	10.0	1.7	3.1	0.0	3.8
筋力向上	0.0	4.6	5.1	0.0	5.7
筋緊張緩和	0.0	2.0	1.8	0.0	0.0
筋持久力向上	0.0	2.5	3.1	0.0	1.9
運動機能	10.0	4.7	3.3	4.3	5.7
痛みの緩和	10.0	9.5	7.7	4.3	1.9
姿勢の維持	0.0	1.5	1.1	0.0	0.0
起居・移乗動作	5.0	6.3	5.3	0.0	1.9
歩行・移動	45.0	50.0	48.3	21.7	60.4
階段昇降	0.0	1.6	1.5	0.0	5.7
公共交通機関利用	0.0	0.5	0.4	0.0	0.0
認知機能	0.0	1.4	3.3	8.7	1.9
意欲の向上	5.0	0.8	0.4	0.0	0.0

入浴	0.0	0.6	0.4	0.0	3.8
排泄	0.0	1.4	0.9	0.0	0.0
更衣	0.0	0.1	0.7	0.0	0.0
食事	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
調理	0.0	0.6	1.5	0.0	0.0
洗濯	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0
掃除・整理整頓	0.0	0.1	0.7	0.0	0.0
家の手入れ	0.0	1.0	1.1	0.0	0.0
買い物	0.0	0.7	0.2	0.0	0.0
対人関係	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0
余暇活動	0.0	1.1	2.6	0.0	0.0
仕事	0.0	0.3	0.0	4.3	0.0
構音機能訓練	0.0	0.0	0.0	17.4	0.0
摂食嚥下機能	5.0	0.3	0.2	4.3	1.9
言語機能	0.0	0.2	0.2	8.7	0.0
コミュニケーション	0.0	0.3	0.7	21.7	1.9
自己訓練練習	10.0	0.6	1.1	0.0	0.0

D. 考察

1,600名を超える通所リハの利用者の課題とリハビリテーションの内容、さらに計画策定者との関係を検討した。まず、通所リハ利用者の特性として、要介護度が比較的軽度の要介護1,2および要支援2で全体の6割を占めた。このことから在宅で暮らすレベルとしては、屋内歩行や身辺動作は自立しているものと想定された。1か月の通所リハの利用回数は8.1回であり、週の平均では約2回ということになった。

利用者の課題について、心身機能に関する項目が高い割合で挙げられていた。「心身機能の維持」は63.3%、「心身機能の向上」は51.2%とそれぞれ半数を超え、ADLやIADLなどの活動に目を向けることよりも、機能、とくに運動機能に着目しがちな面が示された。これは日常生活上の課題の中でも「歩行・移動」、「筋力向上」、「関節可動域」、「筋持久力」などとしてとしても高く取り上げられ、理学療法の対象となる課題と一致していた。

最優先の課題としても、「歩行・移動」の49.5%を筆頭にこれら運動機能に関するものが多く挙げられ、心身機能に過度に着目している現状が明らかとなった。

ADLやIADLなどの個々の活動については、質的な側面は明らかでないものの、最優先の課題として挙げられたものは、「排泄」1.2%、「入浴」0.7%、「調理」0.8%、「家の手入れ」0.9%程度であり、通所リハの優先順位としては低いことが示された。一方で、これら活動の居宅での状況を照らし合わせると、「排泄」で約2割、「入浴」約7割の利用者が自立していないことから、利用者の実情と評価者の視点がずれているのか、あるいはそれぞれのニーズがミスマッチしている可能性が示唆された。

要介護度と最優先の課題との関係についてもそのミスマッチは明らかで、例えば、「歩行・移動」を最優先の課題として挙げた中に要介護4の利用者の75名、要介護5の18名が含まれているなど、課題の挙げ方に問題があるように感じられた。

リハビリテーションの内容もこれらを反映したものであるため、「筋力向上訓練」が最も多くなり、「歩行・移動練習」、「関節可動域」など運動機能に対するプログラムが中心の内容となった。選択したリハビリテーションについても全体の85.6%に理学療法が提供されており、要介護度やそれ以外の特性に関わらず理学療法中心になっている実態が明らかとなった。

以上のことは、通所リハの利用者を誰が評価し、誰がリハの計画を策定しているかということと関連があると考えられるが、本調査における主たる策定者の約2/3を理学療法士が占めていることから理学療法の視点が多く反映されたものと考えられた。実際に、計画策定にあたった理学療法士のうち、50%が「歩行・移動」を最優先課題として挙げている。さらに注目すべきは作業療法士で、これについても最優先課題として「歩行・移動」を挙げたものの割合が48.3%と理学療法士とほぼ同一の割合となった。この理学療法士と作業療法士の計画策定に関する視点については、他の項目でもほぼ同じような傾向を示していることから、作業療法士による評価や目標の立て方が理学療法のそれに近づいているとらえた方がよいであろう。一方、言語聴覚士については、「歩行・移動」を最優先課題に挙げたものの割合が21.7%と少なく、職種間で違いが明らかとなった。

E. 結論

既存調査データをもとに、通所リハ利用者の特性ならびに課題を整理した上で、リハビリテーションの内容と計画策定者との関係を検討した。

利用者の課題では、心身機能、とくに運動機能の割合が高く、日常生活上の課題としても「歩行・移動」が8割に認められた。最優先の課題としても約半数に「歩行・移動」が挙げられ、ADLの実情とはかい離した結果となっていた。

計画策定者との関係では、理学療法士と作業療法士が上記の傾向を同様に示し、言語聴覚士だけは異なる運動機能にこだわらない独自の傾向を示していた。

これらのことから、通所リハに関わる職種の特徴として、作業療法士が理学療法士に近い評価の視点を持ち、リハの計画策定をしている可能性が高いと考えられた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的所有権の出願・登録状況

なし

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
「要介護高齢者の生活機能向上に資する効果的な生活期リハビリテーション／
リハビリテーションマネジメントのあり方に関する総合的研究」
平成 27 年度分担研究報告書

通所介護利用者の利用実態及び
計画作成者の職種別の課題に対する目的、目標達成度

研究分担者 辻 一郎（東北大学大学院医学系研究科 教授）
研究協力者 曾根 稔雅（東北福祉大学健康科学部 講師）
研究代表者 川越 雅弘（国立社会保障・人口問題研究所 部長）

【研究要旨】

研究代表者が委員長を務めている委員会の会議資料をもとに、通所介護事業所における利用実態及び計画作成者の職種別の課題に対する目的、目標達成度に関する現状を、既存調査データをもとに整理した上で、通所介護計画における職種別の特徴について検討を実施し、以下の結果を得た。

通所介護利用者における計画の主たる作成者は、個別機能訓練加算を算定していない者においては看護師や准看護師が多く、個別機能訓練加算を算定している者においては理学療法士が最も多かった。利用者の日常生活上の課題としては、歩行・移動や筋力向上が主に挙げられ、それらの課題に対する訓練が主に行われていた。訓練の頻度は週 2 回程度との回答が多かった。課題に対する目的では、リハビリテーション職種は他職種に比べ、目的を低下防止と回答した者が少なく、維持・改善を目的としていた。

リハビリテーション職種は、課題に対して維持・改善に向けた取り組みを積極的に行っていたことが示唆された。利用者の目標達成に向け、課題に対する目的を適切に設定するため、リハビリテーション職種が関わる機会を増やすことで、さらに効果的な介護サービスの提供に寄与できるものとする。

A. 研究目的

本研究の目的は、通所介護事業所における利用者の利用実態及び計画作成者の職種別の課題に対する目的、目標達成度に関する現状を、既存調査データをもとに整理した上で、通所介護計画における職種別の特徴について検討することである。

B. 方法

厚生労働省が実施中の調査研究事業（リハビリテーションと機能訓練の機能分化とその在り方に関する調査研究事業）のデータの一部を抽出・提供頂き分析した。

C. 結果

1. 通所介護利用者の利用実態（表 1）

1) 通所介護利用者の特性

通所介護利用者の平均年齢は 82.1 歳、男性の割合は 29.8%であった。最も多かった傷病名は高血圧（45.0%）であり、関節症・骨粗鬆症（29.2%）、脳卒中（24.3%）、認知症（23.3%）、骨折（21.9%）の順に続いた。サービス利用開始時の要介護度は要支援 1 が 20.6%、要支援 2 が 20.8%、要介護 1 が 24.9%、要介護 2 が 16.7%、要介護 3 が 8.8%、要介護 4 が 4.6%、要介護 5 が 1.9%であり、要介護 1 の者が最も多かった。サービス利用開始時の障害高齢者の日常生活自立度は J2 の者が最も多く 21.2%であった。過去 1 年間の入院は 16.4%の利用者で認められた。1 か月の通所介護の利用回数は平均 9.3 回であった。

2) 個別機能訓練加算（Ⅰ）と（Ⅱ）のいずれも算定していない者の利用実態（表 2）

2-1) 計画の主たる作成者（表 2-1）

最も多い作成者は機能訓練指導員（57.5%）であり、生活相談員（22.1%）、管理者（15.1%）の順に続いた。機能訓練指導員 499 名のうち、看護師（159 名）と准看護師（154 名）が大部分を占めていた。

2-2) 日常生活上の課題（表 2-2）

日常生活上の課題は、歩行・移動（70.1%）が最も多く、筋力向上（60.5%）、運動機能（49.0%）、体力（47.9%）、関節可動域（37.2%）、意欲の向上（31.5%）、筋持久力向上（30.0%）の順であった。

2-3) 課題に対して実施している訓練（表 2-3）

課題に対して実施している訓練で最も多い訓練は筋力向上訓練（56.3%）であり、続いて歩行・移動練習（50.7%）、体力向上訓練（39.5%）、関節可動域訓練（30.9%）、運動機能改善訓練（26.5%）、筋持久力向上訓練（20.5%）の順であった。

また、課題に対して実施している訓練において個別で行っている訓練は、多い順に歩行・移動練習（35.8%）、筋力向上訓練（29.6%）、関節可動域訓練（20.2%）、痛みの緩和訓練（15.5%）、運動機能改善訓練（12.5%）、体力向上訓練（10.8%）であった。

訓練の実施頻度では、週 1 回程度が 28.6%、週 2 回程度が 41.6%、週 3 回程度が 16.0%であり、週 2 回程度が最も多かった。一方、週 4 回以上、2 週間に 1 回程度未満の実施頻度の者は少なかった。

また、1 週間あたりの訓練時間は平均 70.4 分であった。

3) 個別機能訓練加算（Ⅰ）または（Ⅱ）を算定している者の利用実態（表 3）

3-1) 居宅での状況（現在の実行状況）（表 3-1）

居宅での状況において、食事、排泄、更衣、整容の ADL で介助が必要な者はそれぞれ 44 名、126 名、205 名、160 名であるのに対し、入浴は 340 名と多くの利用者で介助を必要としていた。一方、IADL で介助が必要な者は、買い物で 333 名、調理で 345 名、洗濯で 333 名、掃除で 351 名であり、多くの利用者で介助を必要としていた。

4) 個別機能訓練加算 (I) を算定している者の利用実態 (表 4)

4-1) 計画の主たる作成者 (表 4-1)

主たる作成者の 86.2%が機能訓練指導員であり、大部分を占めていた。機能訓練指導員 269 名のうち、最も多い作成者は理学療法士の 79 名であり、次いで柔道整復師が 67 名であった。

4-2) 日常生活上の課題 (表 4-2)

半数以上の利用者で認められた日常生活上の課題は、歩行・移動 (76.2%)、筋力向上 (73.0%)、体力 (60.6%) であった。その他にも運動機能 (49.5%)、関節可動域 (45.4%)、筋持久力向上 (41.3%) で課題を抱えている者が多かった。

4-3) 課題に対して実施している訓練 (表 4-3)

課題に対して実施している訓練は、多い順に筋力向上訓練 68.7%、歩行・移動練習 60.3%、体力向上訓練 (50.0%)、関節可動域訓練 (40.6%) であった。

また、課題に対して実施している訓練において個別で行っている訓練で最も多い訓練は、歩行・移動練習 (42.8%) であり、続いて筋力向上訓練 (31.4%)、関節可動域訓練 (23.7%) の順であった。

訓練の実施頻度では、週 2 回程度が 36.5%と最も多く、週 3 回程度が 27.3%、週 1 回程度が 17.8%、週 4 回以上が 14.8%の順に多かった。

また、1 週間あたりの訓練時間は平均 79.4 分であった。

5) 個別機能訓練加算 (II) を算定している者の利用実態 (表 5)

5-1) 計画の主たる作成者 (表 5-1)

機能訓練指導員は主たる作成者の大部分を占めており、その割合は 82.9%であった。機能訓練指導員 329 名のうち、理学療法士、看護師がそれぞれ 109 名、66 名と多いことが示された。

5-2) 日常生活上の課題 (表 5-2)

日常生活上の課題で最も多い課題は、歩行・移動 (80.8%) であり、筋力向上 (69.8%)、体力 (57.3%)、運動機能 (54.8%)、関節可動域 (46.8%) の順であった。

5-3) 課題に対して実施している訓練 (表 5-3)

課題に対して実施している訓練で最も多い訓練は、順に歩行・移動練習 (69.9%)、筋力向上訓練 (68.7%)、体力向上訓練 (51.9%)、関節可動域訓練 (44.1%) であった。

また、課題に対して実施している個別の訓練では、最も多い訓練は歩行・移動練習 (53.8%) であり、続いて筋力向上訓練 (36.1%)、関節可動域訓練 (30.6%)、体力向上訓練 (20.5%) の順であった。

訓練の実施頻度では、週 1 回程度が 15.9%、週 2 回程度が 42.6%、週 3 回程度が 28.5%、週 4 回以上 10.4%であり、週 2 回程度が最も多かった。一方、毎日 2.1%、2 週に 1 回程度は 0.5%と少なかった。

1 週間あたりの訓練時間は平均 62.7 分であった。